



ViewFramer ユーザーガイド Salesforce ver. (PDF/一覧)

Ver.1.4

改訂履歴

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/09/04	新規作成
1.1	2020/11/30	出力バージョンの違いについて追記
1.2	2021/06/07	「7.出力アクションの作成」に、リクエストの際のパラメータ「nsPrefix」についての説明を追記
1.3	2021/12/02	3.4 その他のコンポーネント を追加 ラベルの「動的」にチェックを入れる操作について強調するよう編集
1.4	2022/01/07	「5.1ViewFramer ログイン」の注意点を追記

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。
なお、本文中に TM マーク、©マークは明記しておりません。

本書の使い方

本資料では、簡単な帳票見本を作成する中で、ViewFramer をご利用するにあたって最低限必要な基本操作手順を理解することを目的としています。

各画面のボタンやコンポーネントの詳細などについては製品ヘルプをご参照ください。

本書の表記

本書では、以下の表記で記載しています。

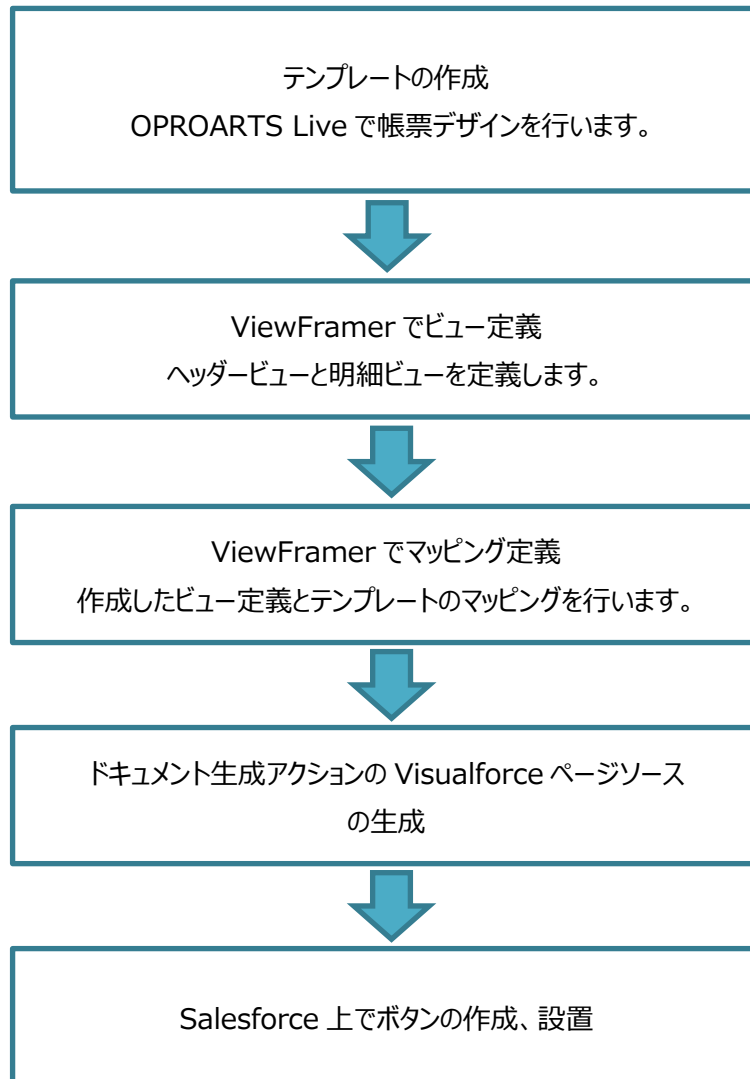
表記方法	内容
注意	操作上の注意事項について記載しています。
Point	操作上で知っている便利なポイントについて記載しています。
参照	本書における参照先を記載しています。
[]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。

目次

1. はじめに	5
2. 全体の流れ	6
3. テンプレートのデザイン	7
3.1 テンプレートの新規作成	8
3.2 基本操作の紹介.....	9
3.3 実際に作る	11
3.4 その他のコンポーネント	16
4. 項目のマッピング	18
5. ビュー定義	22
5.1 ViewFramer ログイン	22
5.2 ビューの作成.....	23
5.3 ビュー定義: 詳細画面 - 基本設定.....	23
5.4 ビュー定義: 詳細画面 - リレーション設定	24
5.5 ビュー定義: 詳細画面 - 出力項目設定	25
5.6 ビュー定義: 詳細画面 - 出力条件.....	26
6. マッピング定義	27
6.1 マッピングの作成.....	27
6.2 マッピング管理: 詳細画面	27
6.3 マッピング管理: 出力設定画面	28
7. 出力アクションの作成	30

2. 全体の流れ

ViewFramer では、以下のような流れで帳票出力が可能になります。



3. テンプレートのデザイン

出力したい帳票の見た目を OPROARTS Live でデザインします。

本ユーザーガイドでは、以下のような帳票を出力するためのテンプレートを作成します。

商談一覧

完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額
① 2100/12/31	山田 桃太郎 ②	商談1 ③	サンプル取引先 ④	⑤ 10,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談2	サンプル取引先	20,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談3	サンプル取引先	30,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談4	サンプル取引先	40,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談5	サンプル取引先	50,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談6	サンプル取引先	60,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談7	サンプル取引先	70,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談8	サンプル取引先	80,000
2100/12/31	山田 桃太郎	商談9	サンプル取引先	90,000

⑥

Page 1

番号	内容
①	商談オブジェクトの完了予定日項目
②	商談所有者名
③	商談名
④	商談オブジェクトに紐づく取引先名
⑤	商談オブジェクトの金額項目
⑥	ページ番号

番号を振っていない部分の文言は固定文言です。
任意の文言を配置、もしくは何も配置しなくても問題ありません。

※本テンプレートは帳票テンプレートの構造を理解するため、敢えて非常にシンプルな構成にしています。
このマニュアルで使用しない各帳票コンポーネントは以下の章で紹介していますので、必要に応じてご参照ください。
[その他のコンポーネント](#)

3.1 テンプレートの新規作成

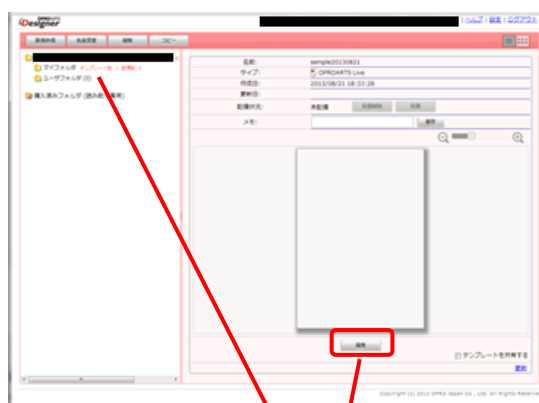
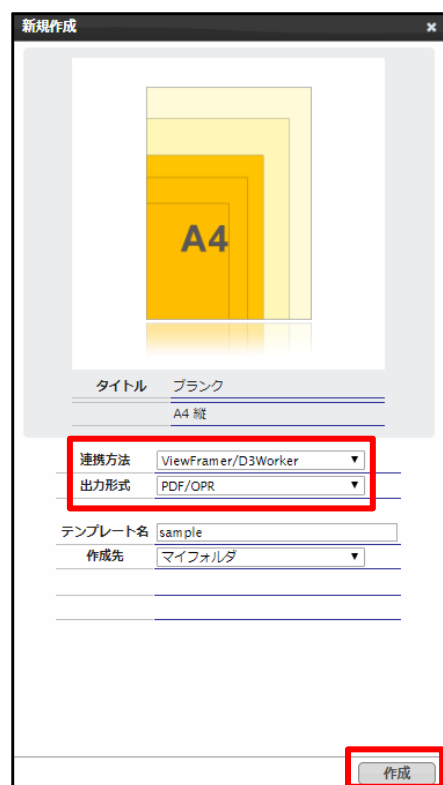
OPROARTS Designer にログインし、左上の[新規作成]をクリックします。



ここでは、[ブランク] タブで A4 縦を選択します。
連携方法「ViewFramer/D3Worker」、出力形式「PDF/OPR」を選択してください。

以下のルールに従って任意のテンプレート名を入力し、[作成] をクリックしてください。

- ・使用できる文字は、英数字とアンダーバー
- ・先頭の文字はアルファベットである
- ・最後の文字がアンダースコアでない
- ・アンダーバーが 2 個以上連続していない



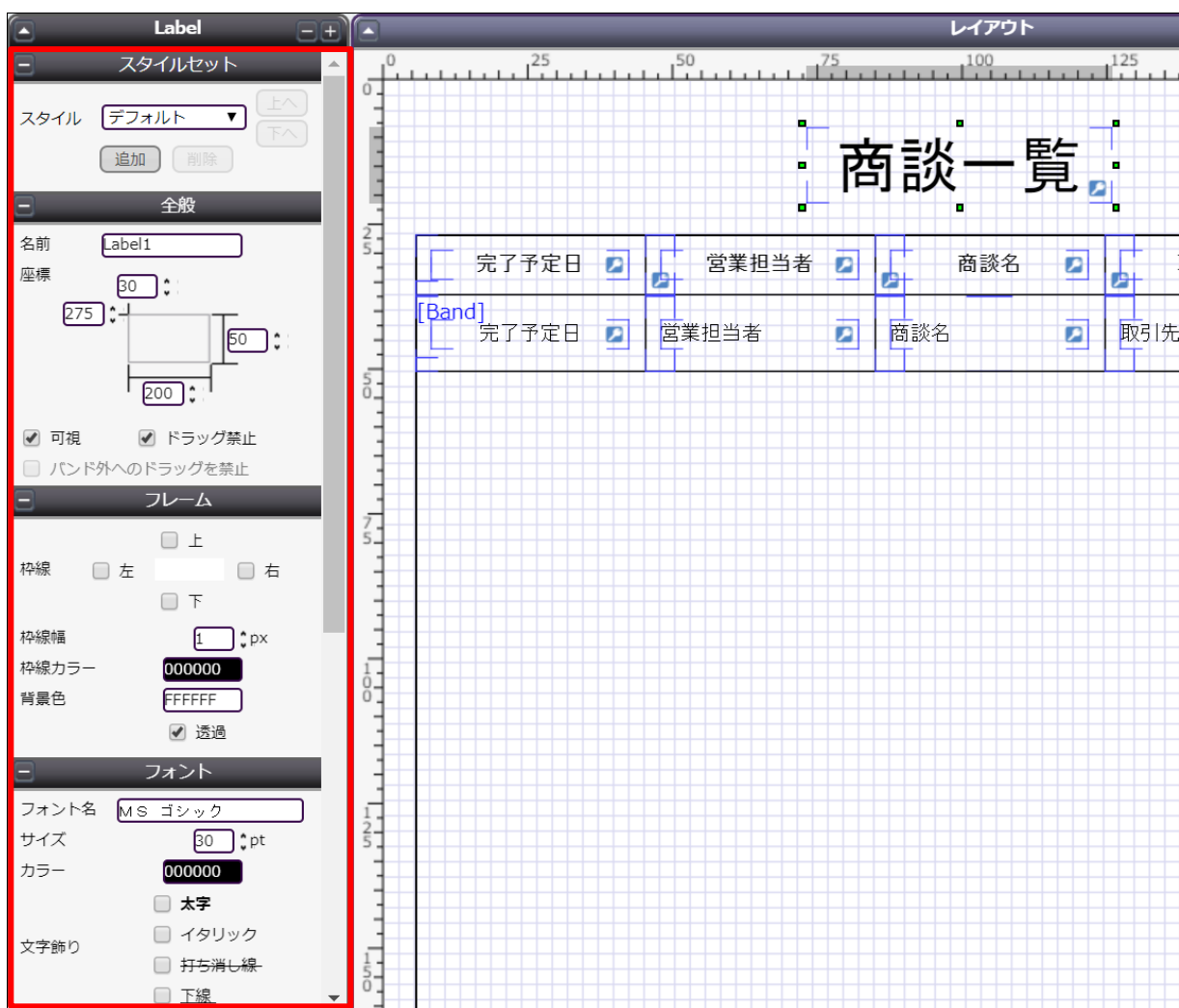
「マイフォルダ」以下のテンプレートをダブルクリックするか、[編集] をクリックして、デザイン画面を開きます。

3.2 基本操作の紹介

左上にあるコンポーネントのリストから配置したいコンポーネントを選択してからレイアウト上をクリックすることで選択したコンポーネントを配置できます。



また、画面左側に現れるプロパティを変更することで現在選択されているコンポーネントの詳細を設定できます。



その他に、知っておくと便利な基本のショートカットキーをご紹介します。

ショートカットキー	動作
[Ctrl] + [矢印 (↑↓←→)]	コンポーネントを 1px ずつ移動
[Ctrl] + [Shift] + [矢 印 (↑↓←→)]	コンポーネントをグリッドの間隔単位で移動
[Shift] + [矢印 (↑↓←→)]	コンポーネントのサイズを変更
[Ctrl] + 選択	コンポーネントを複数選択する(※)
Ctrl+Z	取消
Ctrl+Y	やり直し
Ctrl+X	切り取り
Ctrl+C	コピー
Ctrl+V	貼り付け
Ctrl+A	全て選択(※)
Esc	選択解除
Delete	削除

(※)以下のコンポーネントを組み合わせ、同時に選択することはできません。

- 他のコンポーネントを内包するコンポーネント
- 他のコンポーネントに内包されたコンポーネント

3.3 実際に作る

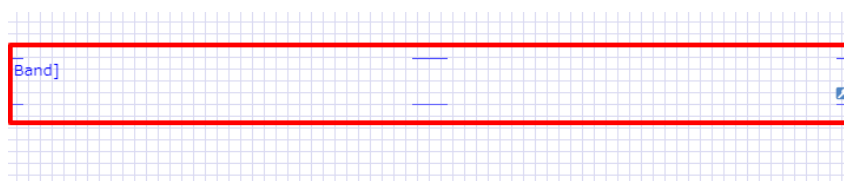
ここでは、実際にテンプレートをデザインしながら Live の使い方を学んでいきます。

1. データセットテーブルを設置

DataSetTable コンポーネントを配置して、明細部分のレイアウトを作成します。

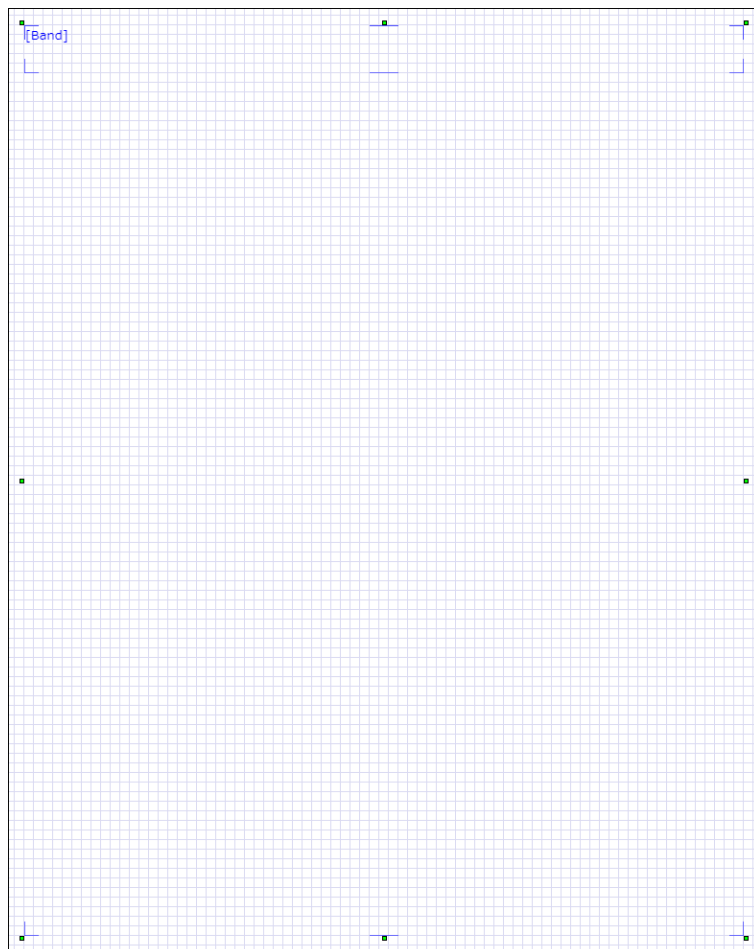


DataSet Table コンポーネントの中に、Band というコンポーネントがあります。



この中に配置されたコンポーネントは、明細として表示されるレコードの数だけ繰り返し表示されます。

明細行の表示範囲を広げるため、コンポーネントの下辺をドラッグ&ドロップして DataSet Table コンポーネントの縦幅を広げます。

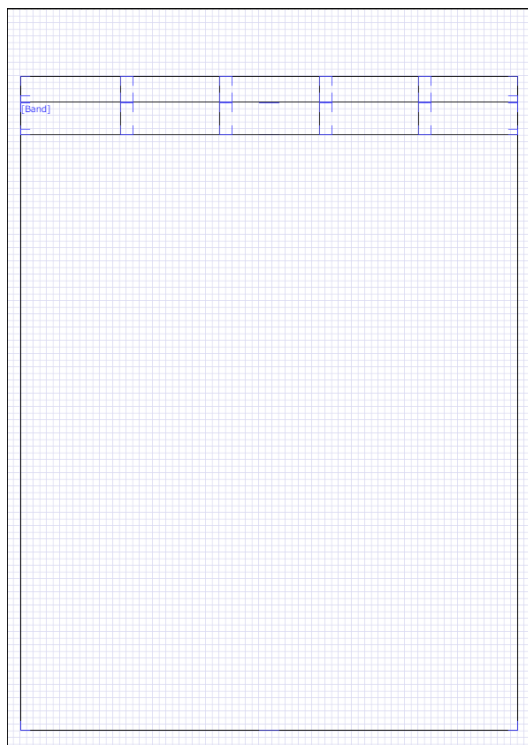


2. 罫線や枠線を引く

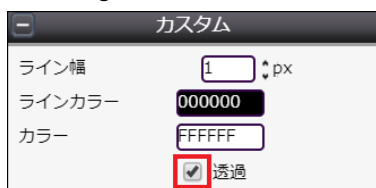
Line コンポーネントや Rectangle コンポーネントを配置することで仕切り線を引くことができます。



Rectangle コンポーネントで Dataset Table コンポーネントの周りに囲み線を、
Line コンポーネントで Dataset Table (Band) 内に仕切り線を引きます。



Rectangle コンポーネントの背景色は、画面左「カスタム」の「透過」にチェックを入れることで透明にできます。



Line コンポーネントの線の向きや太さは画面左「カスタム」と「ライン」で設定できます。

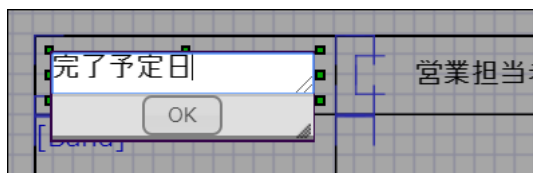


3. 固定文字列を表示するラベルを配置する

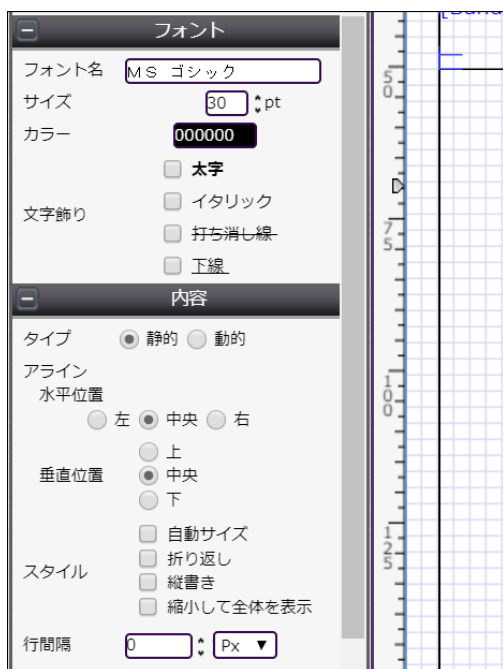
出力元のレコードによって変わらない文字列を表示したい箇所には、Label コンポーネントを配置します。



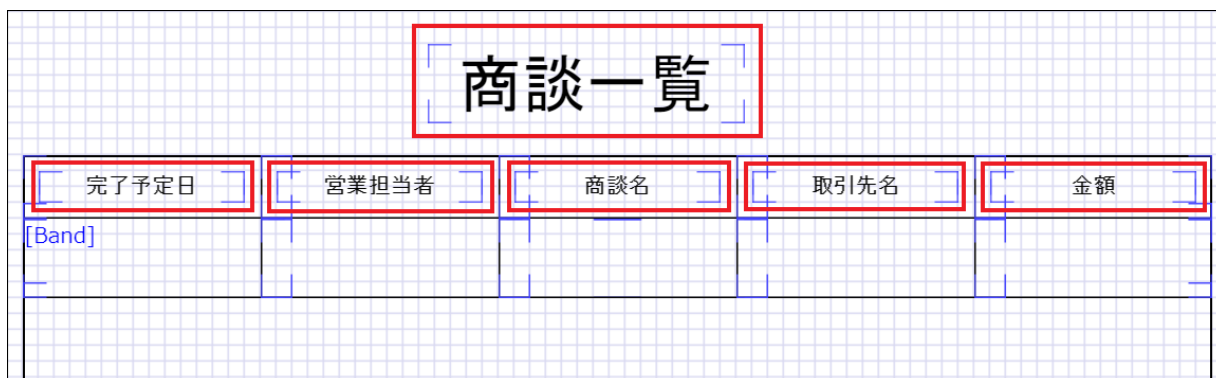
配置した Label コンポーネントをダブルクリックすることで、表示する文字列を編集できます。



文字のサイズ、配置、フォントなどは画面左の「フォント」と「内容」から設定できます。



以上の工程を繰り返し、帳票のタイトルと各明細行に表示したい項目の項目名を配置します。



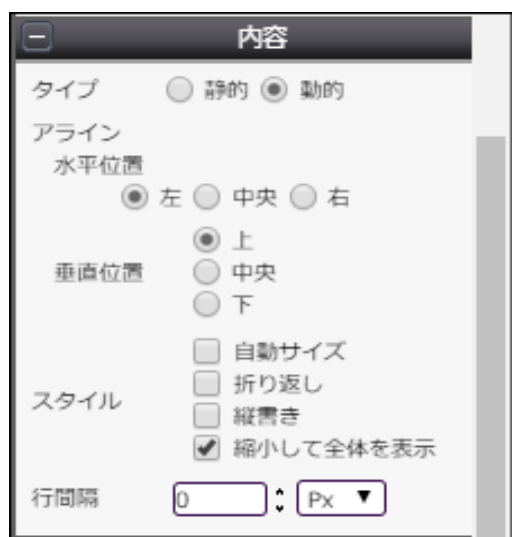
4. 動的文字列を表示するラベルを配置する

Salesforce のオブジェクト項目の値を表示したい部分にも、同じく Label コンポーネントを配置します。



ラベルの詳細内容は以下のように設定します。

※ここでは取引先名を表示するラベルを一例として取り上げています。配置したそれぞれのラベルコンポーネントに合わせて設定してください。



- **タイプ**
このラベルは取引先名の値を表示するので、「動的」に設定します。固定文言の場合、「静的」を指定します。
- **アライン**
水平位置、垂直位置ともに、ラベルのどの位置に文字が表示されるのか指定します。
- **スタイル**
文字数が多くても全体が表示されるよう、「縮小して全体を表示」にチェックを入れます。
- **行間隔**
行の折り返しはしないので、0 のままにしておきます。

各明細行に表示したい項目ごとに動的ラベルを配置します。

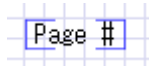
商談一覧				
完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額
完了予定日	営業担当者	商談名	取引先名	金額

5. ページ番号を挿入

レイアウト右下にページ番号を配置します。



実際にレイアウトに配置するとこのようになります。



完成したレイアウトは以下です。



デザインが出来上がったら、保存ボタン(📁)をクリックして、矢印ボタン(➡)でマッピングへ進みます。

3.4 その他のコンポーネント

ここでは、3.3 までに紹介したコンポーネントを含む全ての使用可能なコンポーネントについてリストアップして説明します。



番号	名称	機能
1	Line	レイアウトにラインを描画します。
2	Rectangle	レイアウトに正方形・長方形を描画します。
3	Circle	レイアウトに円・楕円を描画します。
4	Label	レイアウトにテキストを表示します。テキストは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時に データソースの値を動的に適用することもできます。
5	Image	レイアウトに画像を挿入します。画像は、 <ul style="list-style-type: none"> ・お使いのブラウザよりアップロードされたもの ・Salesforce 組織に登録されている画像（画像ファイルのレコード ID から取得） ・外部サーバから URL で取得できるものを設定できます。
6	Barcode	レイアウトにバーコード画像を挿入します。Barcode の元となるデータは、静的に指定(コンポーネントに直接記述)するだけでなく、ドキュメント生成時にデータソースの値を動的に適用することもできます。
7	Page Number	レイアウトにページ番号を表示します。コンポーネント毎に、ページ番号の採番・表示ルールを設定することができます。
8	Total Page Number	レイアウトに総ページ数を表示します。ただし、OPR 形式での出力のみ有効なコンポーネントです。
9	Dataset Table	データソースのデータとリンクし、バンドを使用してレイアウトにテーブルを作成します。Dataset Table コンポーネントは、内部に Band コンポーネントを持ちます。
1 0	Horizontal Dataset Table	データによって明細行が右方向に伸びる点を除き Dataset Table コンポーネントと同じです。
1 1	Container	内部に複数 DatasetTable を配置可能なコンポーネントです。Container 内に二つの DatasetTable を配置して出力すると、最初の DatasetTable にテーブルの内

	容すべてを表示した後、二番目の DatasetTable にテーブルの内容を表示します。
--	--

Dataset Table 内に設定できるコンポーネント

名称	機能
Band	Dataset Table コンポーネントに繰り返し領域（明細行）を描画します。Dataset Table 配置時に内包されています。
Report Header	Dataset Table コンポーネントにレポートヘッダ領域を描画します。レポートヘッダは、繰り返し領域（明細行）の前に1度だけ描画されるヘッダです。
Report Footer	Report Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにレポートフッタ領域を描画します。レポートフッタは、繰り返し領域（明細行）の後に1度だけ描画されるフッタです。
Column Header	Column Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにカラムヘッダを描画します。カラムヘッダは Dataset Table の明細行の直前に描画されるヘッダです。見出しの役割をします。
Group Header	Group Header コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループヘッダを描画します。グループヘッダは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のヘッダを描画します。
Group Footer	Group Footer コンポーネントは、Dataset Table コンポーネントにグループフッタを描画します。グループフッタは、Dataset Table のデータを任意項目でグループ化し、その際のフッタを描画します。

4. 項目のマッピング

デザインしたテンプレートに CSV フィールドをマッピングします。

1. 画面左上の「コンポーネントグループ」内「DatasetTable1」について、CSV 定義を追加します。



「DatasetTable1」にチェックを入れ、[CSV 定義を追加]をクリックします。



2. CSVデータのフィールドを決定します。
[フィールドを定義]をクリックし、[追加]ボタンでフィールドを追加します。

Dataset Table1

1. DatasetTable1 向け CSV

フィールドを定義 マッピング

↑ ↓ 削除

CSV 定義

区切り記号付き 固定長

フィールド区切り記号 ▼

文字列の引用符 ▼

先頭行を無視する

データ出力条件

フィールド名	データタイプ	形式
CloseDate	text	
Owner	text	
Opportunity	text	
Account	text	
Amount	number	

追加 削除 上へ 下へ 形式の読み込み... サンプルCSV

※「先頭行を無視する」のチェックを必ず外してください。外さないと、CSV データが正しく連携されません。

3. フィールドを追加したら[マッピング]をクリックし、それぞれのフィールドについてテンプレートのどの動的項目と対応するかを決定します。

設定したいフィールドの行をクリックして、画面左側の「CSV フィールド」から対応させたい項目を「データ」欄にドラッグ&ドロップします。

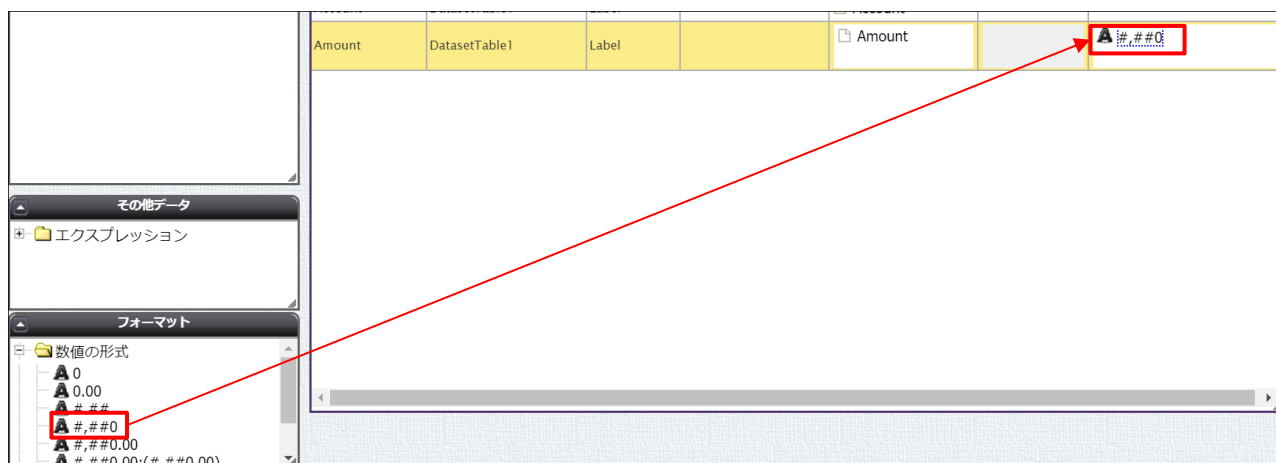
Dataset Table1

1. DatasetTable1 向け CSV



CSVフィールド	コンポーネント	コンポーネントグループ	タイプ	スタイル	データ	集計関数	フォーマット
CSVフィールド							
CloseDate	CloseDate	DatasetTable1	Label		CloseDate		
Owner	Owner	DatasetTable1	Label		Owner		
Opportunity	Opportunity	DatasetTable1	Label		Opportunity		
Account	Account	DatasetTable1	Label		Account		
Amount	Amount	DatasetTable1	Label		Amount		#,##0

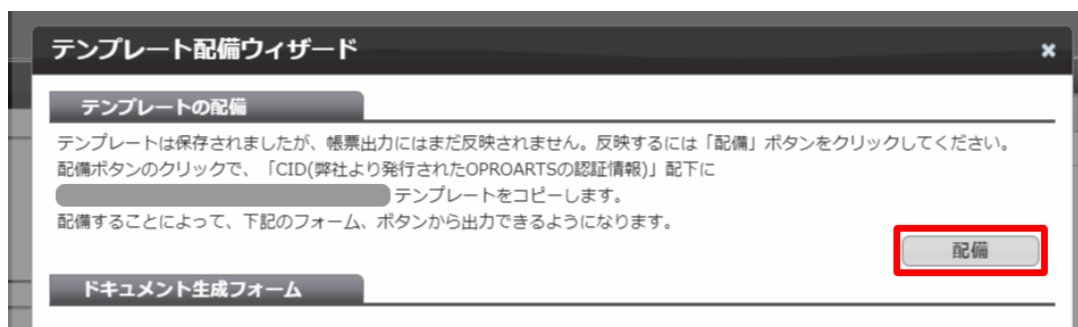
「フォーマット」に好みのフォーマットをドラッグ&ドロップすることで、表示の形式を指定できます。



4. マッピングが終わったら、[保存]をクリックします。



5. テンプレート配備ウィザードにて[配備]をクリックしてテンプレートを帳票出力に使用できる状態にします。



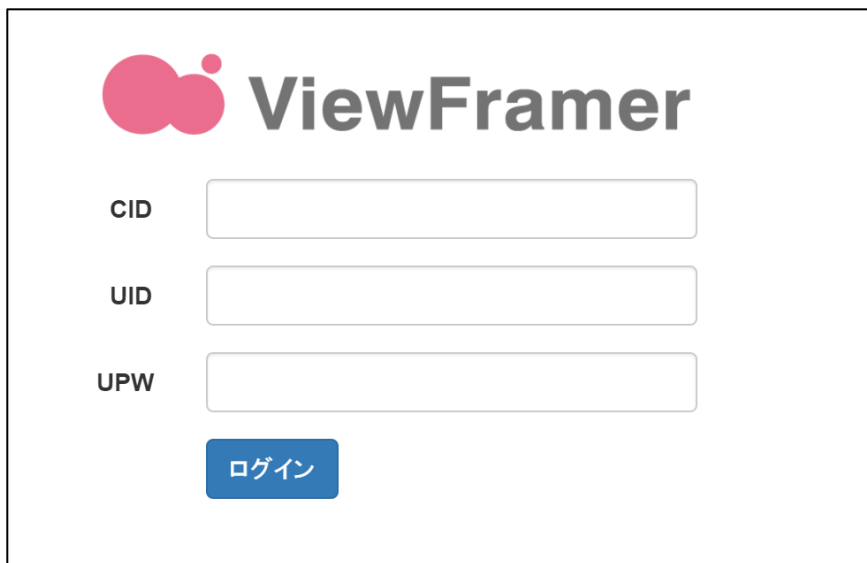
※テンプレートの編集をした際も、必ず[配備]をクリックしてください。配備をしないと変更点が帳票出力に反映されません。

5. ビュー定義

ViewFramer でビューを定義します。

5.1 ViewFramer ログイン

最初に、https://vfui.ap.oproarts.com/view_framer_ui にアクセスし、OPROARTS 認証情報を入力して ViewFramer にログインします。



The image shows the ViewFramer login interface. It features the ViewFramer logo at the top left, which consists of two overlapping pink circles and the text 'ViewFramer'. Below the logo are three input fields labeled 'CID', 'UID', and 'UPW'. At the bottom of the form is a blue button with the text 'ログイン' (Login).

注意 同じウェブブラウザで複数のビューやマッピングを参照・編集すると上書きされてしまいます。
必ず 1 つのタブで操作してください。
既存のビューを参考にしたい場合は、別のブラウザで参考にしたいビューを開くようお願いいたします。
ただし、同時編集はできませんので参照のみにしてください。
また、別のブラウザにした場合も複数のビューを開くことは避けてください。

5.2 ビューの作成

「ビュー」タブを開いて「新規」ボタンをクリックします。



Salesforce にログインします。

(以降「現在のセッション情報を継続する」でもログイン可能です。また、以降のスライドではこの画面を省略しています。)



5.3 ビュー定義: 詳細画面 - 基本設定

基本設定では、ビューの名前とタグ(任意)を設定します。

タグは ViewFramer 内で作成したビューを検索する際のキーワードで、何も指定しなくても構いません。

ビューの名前を設定し、「次へ」をクリックします。例では、「OpportunityList」としています。

※ ビュー名は半角英数で入力してください。



5.4 ビュー定義: 詳細画面 – リレーション設定

リレーション設定では、ビューで用いる Salesforce オブジェクトを設定します。

主オブジェクトに「商談」を選択し、ショートネームを入力します。任意ですが、例では以下のように指定しています。

商談 = Opportunity 取引先 = Account ユーザ = User

関連オブジェクトには「取引先」と「ユーザ」を指定します。設定は以下の画像をご参照ください。

設定をしたら「次へ」をクリックします。

ビュー：定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

リレーション設定

主オブジェクト Opportunity (主オブジェクトのショートネーム)

No 関連オブジェクト

1 Account

No	項目名	演算子	オブジェクト	項目名
1	取引先 ID	等しい(=)	0-商談	取引先 ID

AND

2 User

No	項目名	演算子	オブジェクト	項目名
1	ユーザ ID	等しい(=)	0-商談	所有者 ID

AND

取引先と商談を結びつける条件を設定

次へ 保存

<主オブジェクトと関連オブジェクトについて>

主オブジェクトは、起点となるオブジェクトを指定して下さい。(必ずしもボタンを配置するオブジェクトとは限りません。)

関連オブジェクトは、帳票上に使用する主オブジェクト以外のオブジェクトです。参照関係先のオブジェクトも指定する必要があります。今回は、[取引先名]を表示したいため、取引先オブジェクトを関連オブジェクトとしてリレーションを作成しています。

商談レコードに紐づく取引先レコードを取得するために、関連オブジェクトのリレーション設定では「[取引先 ID]=[商談.取引先 ID]」を、ユーザレコードを取得するために「[ユーザ ID]=[商談.所有者 ID]」を指定しています。

商談 デモ商談

活動予定 | 活動履歴 | 取引先責任者の役割 | パートナー | 競合 | 商品(Standard Price Book) | 見積 添付ファイル | フェーズの履歴 | 見積

商談の詳細

商談所有者 完了予定日 2016/12/24

商談名 フェーズ Qualification

取引先名 確度 10%

期待収益 ¥8,000

金額 ¥80,000

追加情報

リードソース

次のステップ

説明

- 見積条件1
- 見積条件2
- 見積条件3

システム情報

作成者 子工管理PP 2016/11/09 16:53

最終更新者 子工管理PP 2016/11/09 16:53

参照先の項目を使用したいので、この参照先オブジェクトとのリレーションを設定する。

5.5 ビュー定義: 詳細画面 – 出力項目設定

出力項目設定では、帳票に出力する項目を指定します。

「全項目を追加」ボタンで Salesforce オブジェクトのすべての項目を追加することもできますが、一つずつ追加する場合は「+」ボタンをクリックして項目を増やし、「項目ビルダー」から内容を指定します。

「出力項目名」を OPROARTS Live のテンプレート上で定義されている CSV の項目名と同じにしておくと、後の手順で自動的にマッピングすることができます。

ビュー：定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

出力項目設定

対象取得元 Opportunity 全項目を追加

No	項目	ソート	グループ	出力項目名	
1	FORMAT_DATE(Opportunity.完了予定日, 'yyy 項目ビルダー)	順	昇順	CloseDate	+ -
2	User.氏名 項目ビルダー	順	昇順	Owner	+ -
3	Opportunity.商談名 項目ビルダー	順	昇順	Opportunity	+ -
4	Account.取引先名 項目ビルダー	順	昇順	Account	+ -
5	Opportunity.金額 項目ビルダー	順	昇順	Amount	+ -

項目ビルダー

テンプレートのCSV
フィールド名と同じに
する。

「列追加」ボタンをクリックし、オブジェクトと列を選択して追加します。



関数を使用することも可能です。上の設定例では、完了予定日を整形して表示するために `FORMAT_DATE(Opportunity.完了予定日, 'yyyy/MM/dd')` と記述しています。



5.6 ビュー定義: 詳細画面 – 出力条件

レコードの抽出条件を設定できる画面です。

商談に条件を追加します。以下のように設定をしてください。

パラメータ名は任意ですが、今回は「ID」としてください。

ビュー: 定義

基本設定 リレーション設定 出力項目設定 出力条件設定

出力条件設定

Limitを超えるデータがある場合は無視せずにエラーにする。

No 取得元

1 Opportunity Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値
1	商談 ID	いずれかと等しい(IN)	パラメーター名 ID

2 Account Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値
----	-----	-----	-----

3 User Limit 未設定の場合は200,000が設定されます。

No	項目名	演算子	条件値
----	-----	-----	-----

すべての設定が完了したら「保存」ボタンをクリックします。

一覧に戻る 戻る 元に戻す **保存**

6. マッピング定義

各ビューを一つのデータの固まりとしてまとめ、帳票テンプレートと紐づける「マッピング」の定義を行います。

6.1 マッピングの作成

最初に、「マッピング」タブを開いて「新規」ボタンをクリックします。

6.2 マッピング管理: 詳細画面

マッピング名とタイプを指定します。タイプは「一覧型」を選択してください。

明細データには、明細ビューを指定します。

設定ができれば、「次へ」をクリックしてください。

6.3 マッピング管理: 出力設定画面

[出力確認]タブの「データ表示」で取得データの確認を行えます。
問題がなければ、[Documentizer]タブをクリックします。

マッピング：定義 (Simple_Mapping)：出力設定

出力確認 Documentizer D3Worker CSV

出力情報確認

添付CSVファイル

文字コード UTF-8

ファイル リクエストパラメーター名

ファイルを選択 選択されていません

出力条件にパラメータを指定している場合、直接値を入力します。

パラメーター

ID

データ表示 出力バージョン Ver.3

データ表示 出力バージョン Ver.3

ヘッダー

明細

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存 配備

Point データ表示の際に、出力バージョン(※)の指定が可能です。

パラメーター

ID

データ表示 出力バージョン Ver.3

Ver.2

Ver.3

ヘッダー

※出力バージョン切り替えの詳細については、以下ページをご参照ください。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(Salesforce\)](#)

注意 ここで指定した出力バージョンが、後に Salesforce 組織に設置する帳票出力ボタンの挙動に影響することはありません。

帳票テンプレートとのマッピングを行います。以下 3 つの設定を行います。

- ① テンプレートを選択
- ② データにビュー定義を指定
- ③ テンプレートの CSV フィールドとビュー定義のデータフィールドをマッピング
(左側「データ」(=テンプレートのフィールド名)と右側「データフィールド」(=ビューの出力項目)を結びつける)

「td2」のデータには明細データを指定します。

マッピング：定義：出力設定

出力確認 Documentizer D3Worker CSV

Documentizer

プロパティ

データ 明細

出力ファイル名 Live側の帳票テンプレートを指定します。 CloseDate

テンプレート simple_opplist_for_manual_vf

td2

データ 明細

No	データ	データフィールド	画像
1	CloseDate	CloseDate	
2	Owner	Owner	
3	Opportunity	Opportunity	
4	Account	Account	
5	Amount	Amount	

自動マッピング

「自動マッピング」でテンプレートと簡単にマッピングができます。

一覧に戻る 戻る 元に戻す 保存 配備

マッピングが完了したら、「配備」をクリックしてください。

7. 出力アクションの作成

Salesforce のレコード画面から帳票を出力するアクションを作成します。

Salesforce のレコード画面から ViewFramer で帳票出力をするためには、出力をリクエストするアクションを Salesforce のレコード一覧画面上に作成する必要があります。

1. [こちらのページ](#)に添付されている「リストビュー用 Visualforce ページサンプル.txt」をダウンロードし、同じページ内の「サンプル Visualforce ページの変更点」を参考に内容を書き換えます。

(例)

```
<apex:page standardController="Opportunity" standardStylesheets="false" showHeader="false" sidebar="false"
  applyHtmlTag="false" applyBodyTag="false" docType="html-5.0" recordSetVar="displayed">
<html lang="ja">
<head>
<meta charset="utf-8" />
<meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1" />
<title>ViewFramer list button</title>
<apex:slds />
</head>
<body>
<div class="slds-scope">
  <div class="slds-p-vertical_x-small">
    <h1 class="slds-text-heading_small">実行しています...</h1>
    <p class="slds-text-body_regular">
      <a href="#" onClick="submitAction();">自動的に開始されない場合はこのリンクをクリックしてください。</a>
    </p>
  </div>
</div>
<apex:variable var="noCheckbox" value="{!$User.UITheme == 'Theme4t'}" />
<script type="text/javascript" src="/canvas/sdk/js/publisher.js"></script>
<script type="text/javascript" src="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.60.js"></script>
<script type="text/javascript">
function getSelectedIds() {
  var selectedIds = ['<apex:repeat value="{!selected}" var="record">,{!JSENCODE(record.Id)}</apex:repeat>'];
  selectedIds.shift();
  if (selectedIds.length !== 0) {
    return selectedIds;
  }
  var displayedIds = ['<apex:repeat value="{!displayed}" var="record" rendered="noCheckbox">,{!JSENCODE(record.Id)}</apex:repeat>'];
  displayedIds.shift();
  return displayedIds;
}
function submitAction() {
  /* if (!window.confirm('実行しますか?')) { return; } */

  var ids = getSelectedIds();
  if (ids.length === 0) {
    window.alert('レコードを選択してください。');
    window.history.back();
    return;
  }
}

VIEWFRAMER.action({
  mappingNm: 'Opportunitylist',
  fileName: '商談リスト',
  ID: ids,
  api: ['{!JSENCODE($Organization.Id)}', '{!JSENCODE($Api.Session_ID)}', '{!JSENCODE($Api.Session_ID)}'],
  url: ('').withS1('').pdf();
});
```

アクションを設置するオブジェクトの API 参照名です

リストビューで選択した複数のレコード ID が入った値です
ここに入っているレコード ID の商談オブジェクトについて、帳票が出力されます

Point

上記内容の

「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.**.js" />」の箇所について

- デフォルトでは、2020年10月26日以降の出力バージョン(v3)で帳票出力されます。

1.** の部分が、1.60以上のバージョンになっていることを確認してください。

例: <apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.60.js" />

- 2020年10月25日以前 of 出力バージョン(v2)で帳票出力をしたい場合は

「<apex:includeScript value="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.50.js" />」に書き

換えてから Visualforce ページを保存してください。

出力バージョン(v2、v3)の違いは以下ページに記載の通りです。

[ViewFramer 出力バージョン切り替え方法 \(Salesforce\)](#)

Point

ボタンを設置する組織で使用する OPROARTS Connector の種類に合わせて、

「VIEWFRAMER.action({...}」以下に

以下の記述を追記してください。

- soarize OPROARTS Connector の場合

nsPrefix:"appsfs",

- docutize OPROARTS Connector の場合

nsPrefix:"docutize",

- OPROARTS Connector ver2.0 以降 (※)

nsPrefix:"oproarts1",

- OPROARTS Connector ver1.34 以前 (※)

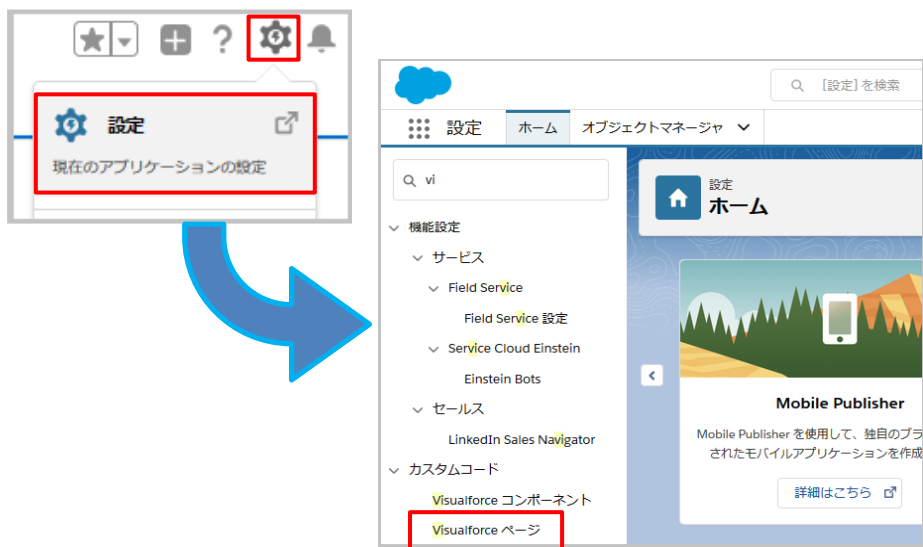
上記のいずれも指定していない状態にします。

※OPROARTS Connector のバージョンは、Salesforce の「設定」> 「インストール済みパッケージ」画面にてご確認ください。

以下、設定例です。

```
VIEWFRAMER.action({  
  
    mappingNm:'SampleMappingName',  
  
    fileName:'SampleFileName',  
  
    nsPrefix:"oproarts1",
```

2. 設定>カスタムコード>Visualforce ページを選択します。



3. [新規] ボタンをクリックし、下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。

The image shows two parts of the Salesforce interface. The top part is the 'Visualforce ページ' (Visualforce Page) configuration page. It has a header with a gear icon and the text '設定 Visualforce ページ'. Below the header, there's a section titled 'Visualforce ページ' with a description: 'Visualforce ページで、好みのユーザーエクスペリエンスのアプリケーションを作成したり、ユーザーの生産性を最適化できる既存アプリケーションをカスタマイズしたり。'. There are two buttons: 'すべて' and '新規ページの作成'. At the bottom right, there are two buttons: '開発者コンソール' and '新規', with the '新規' button highlighted by a red box. A blue arrow points from this '新規' button to the 'Visualforce Markup' editor below.

The bottom part is the 'Visualforce Markup' editor. It has a header with 'ページ情報' and a red exclamation mark icon with the text '= 必須情報'. Below the header, there are three input fields: '表示ラベル' (displayed as '商談リスト'), '名前' (displayed as 'opportunity_list'), and '説明'. Below these fields, there are two checkboxes: 'Lightning Experience、Lightning コミュニティ、およびモバイルアプリケーションで利用可能' (checked) and 'GET 要求の CSRF 保護が必要' (unchecked). Below the checkboxes, there are two tabs: 'Visualforce Markup' and 'Version Settings'. The 'Visualforce Markup' tab is active, showing a code editor with the following code:

```

1 <apex:page standardcontroller="opportunity_standardstyresheets" false showheader="false" sidebar="false
2   applyHtmlTag="false" applyBodyTag="false" docType="html-5.0" recordSetVar="displayed">
3 <html lang="ja">
4 <head>
5 <meta charset="utf-8" />
6 <meta name="viewport" content="width=device-width, initial-scale=1" />
7 <title>ViewFramer list button</title>
8 <apex:slds />
9 </head>
10 <body>
11 <div class="slds-scope">
12   <div class="slds-p-vertical_x-small">
13     <h1 class="slds-text-heading_small">実行しています...</h1>
14     <p class="slds-text-body_regular">
15       <a href="#" onclick="submitAction();">自動的に開始されない場合はこのリンクをクリックしてください。</a>
16     </p>
17   </div>
18 </div>
19 <apex:variable var="noCheckbox" value="{!$User.UITheme == 'Theme4t'}" />
20 <script type="text/javascript" src="/canvas/sdk/js/publisher.js"></script>
21 <script type="text/javascript" src="https://s.oproarts.com/viewframer/js/viewframer-1.60.js"></script>
22 <script type="text/javascript">
23 function getSelectedIds() {
24   var selectedIds = []; <apex:repeat value="{!selected}" var="record">,'{!$USERCODE(record.Id)}'</apex:repeat>;
25   selectedIds.shift();
26   if (selectedIds.length !== 0) {
27     return selectedIds;
28   }
29   var displayedIds = ['']; <apex:repeat value="{!displayed}" var="record" rendered="noCheckbox">,'{!$USERCODE(record.Id)}'</apex:repeat>;

```

表示ラベル(例)

商談一覧

名前(例)

opportunity_list

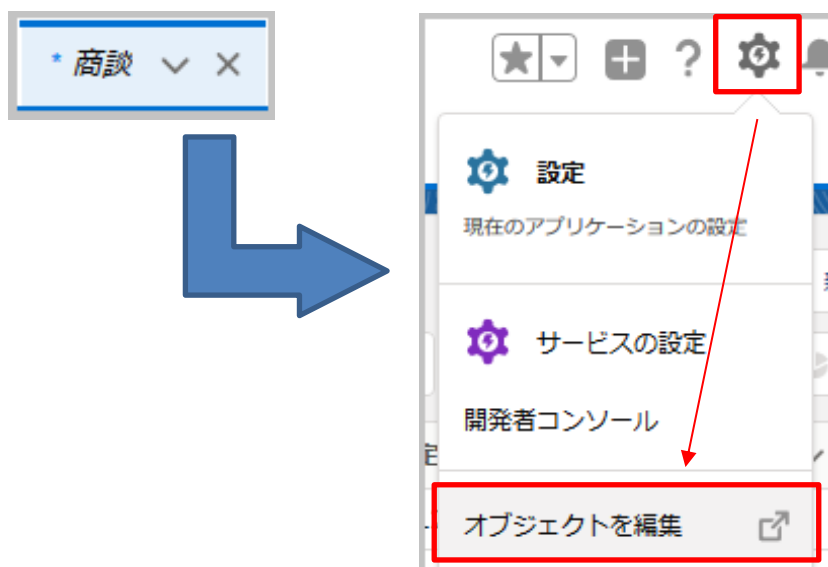
「Lightning Experience～」

チェックを入れる

内容

1 で変更した内容

4. アクションを設置するオブジェクトを選択して、設定の[オブジェクトを編集]をクリックします。



5. 「カスタムボタンまたはカスタムリンク」の編集画面へアクセスし、下記のように設定して[保存]ボタンをクリックします。

商談のカスタムボタンまたはカスタムリンク
新規ボタンまたは新規リンク

カスタムボタンまたはカスタムリンクの編集

表示ラベル

名前

説明

表示の種類

- 詳細ページリンク サンプルを表示
- 詳細ページボタン サンプルを表示
- リストボタン サンプルを表示
- チェックボックスの表示 (複数レコード 選択用)

動作

内容のソース

コンテンツ

表示ラベル(例)

商談一覧発行

名前

OpportunityList

表示の種類

リストボタン を指定

チェックボックスの表示(複数レコード選択用) にチェック

動作

現在のウィンドウにサイバー付きで表示 を指定

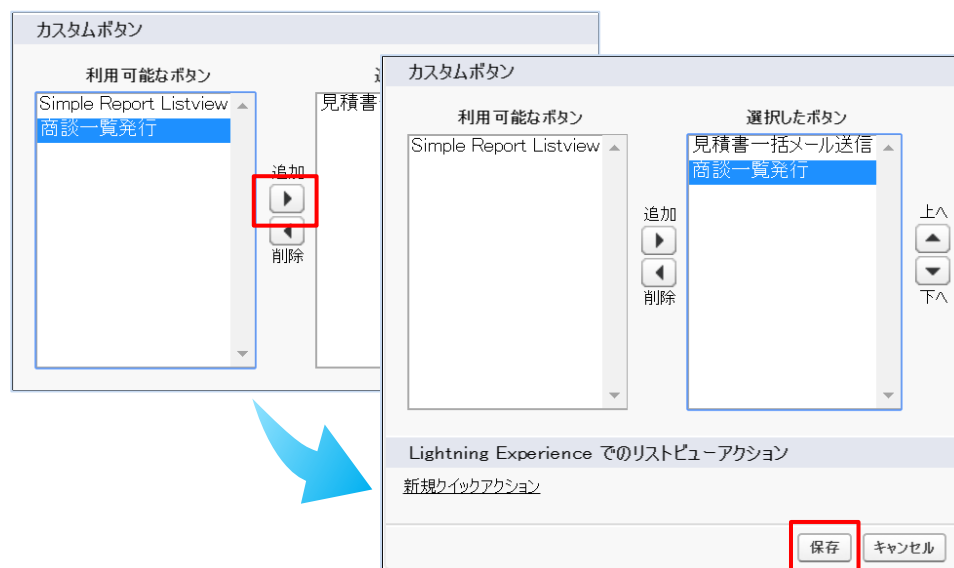
内容

コンテンツ→作成した Visualforce ページを指定

6. 設定 > オブジェクトマネージャ > 商談画面の[Salesforce Classic の検索レイアウト]をクリックし、リストビューの[編集]リンクをクリックします。
- ※ [Salesforce Classic の検索レイアウト]メニューがない場合、[検索レイアウト]メニュー内のリストビューを編集します。



7. 5 で作成したアクションを選択して[追加]ボタンをクリックし、保存します。



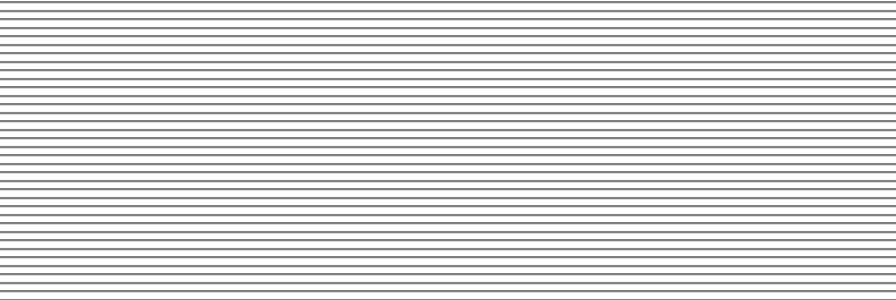
8. リストビューページにアクションが表示されていることを確認します。

※「すべての商談」を選択してください。



41 個の項目・並び替え基準: 商談名・検索条件: すべての商談・数秒前に更新されました

商談名 ↓	取引先名	金額	完了予定日	フェーズ	商談所...
1 <input type="checkbox"/> 商談9	サンプル取引先	¥90,000	2100/12/31	Prospecting	docut
2 <input type="checkbox"/> 商談8	サンプル取引先	¥80,000	2100/12/31	Prospecting	docut
3 <input type="checkbox"/> 商談7	サンプル取引先	¥70,000	2100/12/31	Prospecting	docut
4 <input type="checkbox"/> 商談6	サンプル取引先	¥60,000	2100/12/31	Prospecting	docut



ViewFramer
ユーザーガイド
Salesforce ver.
(PDF/一覧)

